

令和6年度 鳥取県・江原特別自治道議会友好交流議員団 報告書

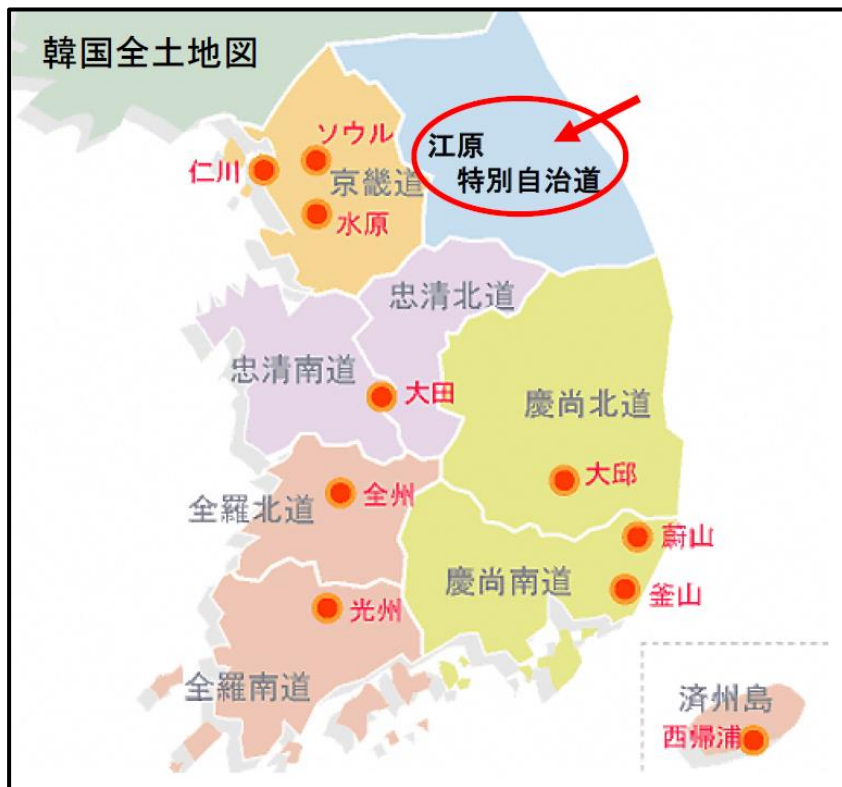
〔令和6年7月14日（日）～7月17日（水）〕



～江原特別自治道議会の皆さんと～

鳥取県議会

大韓民国



江原特別自治道



1 訪問日程及び訪問先

令和6年7月14日（日）～7月17日（水）

大韓民国 江原特別自治道

※ 詳細は「4 日程表」のとおり

2 訪問団メンバー

団長	浜崎 晋一	議長
副団長	入江 誠	議員（総務教育常任委員会）
団員	前田 伸一	議員（福祉生活病院常任委員会）
団員	鳥羽 喜一	議員（農林水産商工常任委員会）
団員	前住 孝行	議員（地域県土警察常任委員会）
<随行者>	議会事務局	局長 村上 敦志
		総務課 課長補佐 尾崎 正高
		議事・法務政策課 主 事 吉村 勇紀
	観光交流局	交流推進課 国際交流員 愼 慧蘭（シン ヘラン）

3 所感及び県政に対する提言

鳥取県議会と江原特別自治道議会は平成22年度に締結した「友好交流に関する合意書」に基づき、両県・道の共同発展に寄与することを目的に交流を行うこととしており、交互に相手国を訪問している。平成30年度に江原道議会議員団を鳥取県に受け入れて以降、日韓関係の状況や新型コロナウイルス感染症の世界的流行により中断していた両県・道議会の相互交流は、1994年に江原道と鳥取県が友好交流に関する協定を締結してから30周年を迎える記念すべき年である本年、再開されることとなった。

両県・道議会の相互訪問では、従来からお互いに共通する地域課題について、取組事例の視察や意見交換などを実施している。今回は、本県議会の各常任委員会から提出された、「未来産業グローバル都市に向けた産業クラスター造成」、「学校教育におけるICTの活用」、「地域資源を活用した観光誘客策」「ユネスコ世界ジオパークの取組」について、意見交換や関連施設の視察を行った。

このたびの訪問では、まず、金是晟（キム・シソン）江原特別自治道議会議長を表敬した。当日は、韓国のテレビ局による取材が行われ、夜のニュース番組で報道されるなど、両県・道議会のこれまでの交流の積み重ねによる絆の深さとともに、このたびの交流再開について、韓国側でも大きな期待が寄せられていることを強く実感した。

また、表敬の際には、金是晟議長に加え、金瑠福（キム・ヨンボク）第一副議長、崔承洵（チェ・スンスン）日韓国際交流協会会長をはじめとする江原特別自治道議会議員を交えて意見交換を行った。金是晟議長からは、交流再開に対する祝福の気持ちとともに、両県・道の益々の交流の深化と共同発展への強い意気込みを聞かせていただいた。

翌日は、金鎮台（キム・ジンテ）江原特別自治道知事を表敬した。金知事からも、両県・道友好交流30周年に当たる節目の年に議会交流が再開されたことへの祝意とともに、米子－ソウル間の国際定期便や境港－東海間の定期貨客船の運行開始など、両地域は空の道・海の

道に加え、心の道が繋がっており、交流再開の環境は全て整っているとの力強い言葉をいただいた。両県・道が観光はもとより、経済、文化・芸術、教育など様々な分野でさらに交流を深化させ、両地域の活性化に繋げていくことへの期待が高まった。

また、このたびの訪問では、両地域に共通する行政課題として、先述の4つのテーマについて、江原特別自治道の取組状況を視察した。

まず、「未来産業グローバル都市に向けた産業クラスター造成」に関連して、「春川バイオ産業振興院」を視察した。振興院は、「春川市にバイオ産業の拠点を作りたい」という当時の春川市長の熱意から始まり、現在では、振興院に入居する企業は50社を数え、関連するバイオ産業関連企業の支援をはじめ、江原特別自治道にある企業の支援を行っている。設立当初は、春川市職員による活動であったが、行政のみでは十分な支援ができなかったことから、バイオ産業の更なる発展・拡大のため2003年に財団法人となり、大学と民間企業の協力関係による地域産業の育成を進めている。

春川バイオ産業振興院を中心とした産業クラスターが形成されるに至った要因は、大学と民間企業の相互協力を行政が支援することにあった。近年では、春川バイオ産業振興院は、国による特区指定による様々な恩恵を活用し、一層の発展に動き出しているが、国からの特別な支援がなくても春川市にバイオ関連産業が育成され、クラスターへ発展したことから、本県における産業クラスター造成の可能性を感じることもできた。また、春川バイオ産業振興院と鳥取県の協力関係についても、どのような分野で連携・協力することができるのか、院長からは鳥取県を訪れて考えてみたい旨の発言があるなど、これからの交流発展を強く感じた。

次に、「学校教育におけるICTの活用」に関連して、春川市内にある江原中学校を視察した。同校は教科分野を超えた融合型教室が整備されており、VRゴーグル、ARグラス、3Dプリンターを活用して子供たちが主体的に学ぶ姿を拝見し、「教室環境が良く、授業が楽しい」という生徒の感想に深く共感した。

また、同校は、教材研究、授業、生徒からの相談対応や協議、クラブ活動などすべての学校活動を1人の教師が1つの教室で運営する方法により、教師が生徒の小さな変化も見逃さず、生徒が学習や家庭関係などの困りごとを気兼ねなく教師に相談できる環境を作っている。この教室運営によって、学校内暴力の発生件数が抑えられているとのことであり、鳥取県においても、誰1人取り残さない教育と生徒が通いたくなる学校の実現に向けて、ICTを活用した教育環境の整備とともに、子どもの創造性を育む教育実践の取組は、参考とすべき点が多いと考える。

次に、「地域資源を活用した観光誘客策」に関連して、春川市にある三岳山湖（サマクサンホス）ケーブルカーを視察した。新型コロナウイルス感染症流行時である2021年10月にオープンした韓国内最長を誇るケーブルカーであるが、来客数は順調に増えており、累計約161万人が訪問するなど、国内の同種施設と比べても、集客に成功しているとのことであった。多くの観光客を惹きつける要因は、四季折々の景観と首都圏からのアクセスの良さであると同い、本県が誇る豊かな自然が有効な観光素材となることを改めて認識するとともに、

その磨き上げや近年格段に向上しているアクセス性をさらに向上させ、幅広く発信することが観光誘客に結び付くものと感じた。

最後に、「ユネスコ世界ジオパークの取組」に関連して、春川国立博物館で意見交換を行った。複数の自治体による運営組織の在り方、他地域とのネットワーク構築など山陰海岸ユネスコ世界ジオパークが抱える課題を共有するとともに、100万人が訪れるジオを活用したイベント開催など積極的な誘客策が展開されており、新しい知見を得ることができた。また、漢灘江（ハンタンガン）国家地質公園と山陰海岸ユネスコ世界ジオパークの交流についても歓迎するコメントがあり、今後、連携の可能性を探っていくことが必要であると感じた。

以上述べたとおり、鳥取県と江原特別自治道は、視察した地域産業の発展、学校教育、観光誘客、ジオパークをはじめ、多くの分野で共通の課題を抱え、課題解決に向けた取組を進めている。今後も、両県・道議会が活発に交流、意見交換を積み重ねていくことで、お互いに新しい視点や認識を共有し、地域行政の発展に資することができることを確信した。

4 日程表

日 時		日 程
7/14 (日)	11:20	借上バスで米子空港へ
	15:50	米子空港発 (RS746便)
	17:45	仁川空港着 ※江原特別自治道へ移動
	22:00	ホテル着
7/15 (月)	10:00	ホテル発
	10:20	金 是晟 (キム・シソン) 江原特別自治道議会議長 表敬
	14:20	春川バイオ産業振興院 視察 (産業クラスターについて)
	15:40	江原中学校 視察 (ICT活用について)
	18:00	金 是晟 (キム・シソン) 江原特別自治道議会議長主催 晚餐会
7/16 (火)	9:10	ホテル発
	9:30	金 鎮台 (キム・ジンテ) 江原特別自治道知事 表敬
	12:50	春川三岳山湖ケーブルカー 視察 (観光資源について)
	14:00	国立春川博物館 視察 (ジオパークについて)
	18:00	崔 承洵 (チェ・スンスン) 日韓親善交流協会会長主催 歓送会
7/17 (水)	8:10	ホテル発
	13:25	仁川空港発 (RS745便)
	14:50	米子空港着
	18:00	借上バスで鳥取へ

5 訪問先の概要

【令和6年7月15日（月）】

(1) 金 是晟（キム・シソン） 江原特別自治道議会議長 表敬

〔応対者〕 金 是晟（キム・シソン） 江原特別自治道議会議長
金 瑠福（キム・ヨンボク） 江原特別自治道議会第一副議長
李 漢榮（イ・ハニョン） 江原特別自治道議会議員（運営委員長）
崔 承洵（チェ・スンスン） 江原特別自治道議会議員（日韓親善交流協会会長）
ほか、江原特別自治道議会事務処職員

【金是晟江原特別自治道議会議長あいさつ要旨】

- 鳥取県議会訪問団の皆様の江原特別自治道議会訪問を心より歓迎するとともに、感謝申し上げます。
- 私自身、鳥取県を3回訪問している。豊かな自然環境、美味しい食べ物、街がきれいであることなどの印象が残っている。
- 江原特別自治道には、国内最古の観光地がある。鳥取県とよく似ていると思う。
- 今回の訪問では、江原特別自治道の観光地や博物館などを視察していただくこととなっているが、皆さんが視察現場で感じたことなどを御助言いただきたい。
- 双方向の友好交流は、知事や議長が交代しても変わらないと信じているし、お互いに意見交換を行うことは、両道・県が持続的に成長し、発展していくことに役立つと考えている。
- 今回の訪問日程では、江原特別自治道の東海岸地域は訪問しないとのことであるが、次回の訪問の際には、ぜひ、東海岸地域にも足を運んでいただきたい。
- また、私の選挙区に近いところで、雪岳山（ソラクサン）国立公園という場所があるが、こちらにも是非、足を運んでいただければと思います。
- これからも相互協力を通じて友好交流に邁進していきたい。
- 皆様にとって、今回の訪問が有意義な日程になることを心から願っている。

【浜崎議長あいさつ要旨】

- 金江原特別自治道議会議長はじめ皆さま方におかれては、面談の時間をいただいたことに感謝申し上げます。
- 江原道と鳥取県とは、1994年に友好交流に関する協定を締結して以降、様々な交流を積み重ねてきた。両県・道議会においても、2010年に友好交流に関する合意書を締結し、交互に相手国を訪問してきた。
- 2019年に一時中断した交流が、両県・道友好交流30周年という記念すべき年に再開し、皆さまにお会いすることができたのは、この上ない喜びである。
- 昨年7月、江原道は高度な自治権が保証された特別自治道に昇格し、未来産業グローバル都市を目指すなど、今後の飛躍的な経済発展が期待されている。我々議会同士が積極的に交流を展開することによって官民の様々な連携を牽引し、両県・道の発展につなげていく姿勢が重要である。
- 去る7月4日に友好交流30周年記念行事が開催された際、両県・道知事が「若者が活躍する未来創造共同宣言」に署名した。今後、青少年交流からスポーツ交流、若手ビ

ジネスマンの往来など、幅広い分野で若者を中心とした交流が促進されるよう、連携を強化して取り組んでいく必要がある。

- 「空の道（米子ソウル便）」「海の道（米子・東海間の定期貨客船）」の利用促進に向け、観光交流はもとより、新たな貨物の掘り起こしや物流ルートのPRなどにも、両地域の官民が連携して取り組まなければならない。
- 今回の交流事業を通じて相互理解が深まり、両地域の絆がさらに強まって一層の発展につながることを期待している。

【主な発言概要】

（金 瑠福 江原特別自治道議会第一副議長）

- 鳥取県議会訪問団の皆様への江原特別自治道議会訪問を心より歓迎する。
- 鳥取県と江原特別自治道議会との交流関係は、非常に深く、長い歴史を有している。両道・県議会が力をあわせることで、これからますます交流を活性化させていき、両道・県が発展していくことを願っている。
- 本日訪問された皆さんの所属委員会を見ると、教育、福祉、警察、農林水産などそれぞれの分野の方が来られている。江原特別自治道議会にも、福祉、農業水産、警察委員会などがあるが、それぞれの分野の交流を通じて双方が目指している方向など、相互に意見交換をしながら、交流を深めていければいいと考えている。

（崔 承洵 日韓国際交流協会会長）

- 鳥取県議会訪問団の皆様への江原特別自治道議会訪問を心より歓迎する。
- 江原特別自治道は、恵まれた自然環境の観光地がある。今回の訪問期間中に皆さんに見ていただき、多くのことを感じていただき、楽しんでいただきたいと思います。
- 今回皆さんが江原特別自治道を訪問されたことによって、両道・県議会及び両道・県執行部の交流が強化されることを願っている。

（李 漢榮 江原道議会運営委員長）

- 浜崎晋一鳥取県議会議長をはじめ、皆さんの訪問を歓迎申し上げます。
- 以前、マスコミ報道を見ていたら鳥取県と文化芸術の交流があるという報道があった。文化芸術交流のほか、いろんな分野での交流が活発になっていくことを願っている。
- 今回、短い滞在期間ではあるが、江原特別自治道で楽しい思い出をたくさん作っていただけることを願っている。

【その他】

- ・議長表敬終了後、江原特別自治道議会の議場を御案内いただいた。
- ・議場には大型モニターが複数台設置されているとともに、各議員の議席にもモニターが備え付けられており、ICT化、ペーパーレス化が進んでいる。
- ・また、本県議会と同様、インターネット中継及び手話通訳を行っている。
- ・投票率は横ばいで推移しており、2年前の道議会議員選挙では約61%とのことである。
- ・韓国でも政治に関心を持たない層が増えつつあり、地方政治においても変わらないといけないとの問題意識をもっているとの発言があった。



金是晟江原特別自治道議會議長と浜崎晋一鳥取県議會議長



江原特別自治道議會議員との懇談の様子



記念品交換の様子



議場内の様子(大型モニター、議員席モニター)



江原特別自治道議會本會議場での記念撮影

(2) 春川バイオ産業振興院 視察

〔応対者〕 金 昌赫 院長 ほか

【主な発言内容】

- ここ4～5年間は、新型コロナウイルス感染症の関係などで両道・県の交流は中断されたままであったと伺っている。私自身は鳥取県を訪れたことはないが、両地域が切っても切れない関係であることはよく承知している。
- 交流が再開され、これからは両道・県の交流が一層拡充されていくことを願っている。
- 鳥取県のバイオ産業は、鳥取大学と協力して完成されつつあると伺っている。今、我々がやっているバイオ技術とは少し異なっているが、その他の面では、交流または協力できる部分もあるかなと思うので、交流の可能性を探ってみたい。

【主な意見交換内容】（○：訪問団、●：視察先）

- 国のバイオ構想のもとでバイオ産業振興院の創設が行われたのか。また、地域とどのように関わっているのか。
- バイオ産業振興院が春川市に設立されるに至った背景は、バイオ産業の必要性に関する大学の説明に当時の春川市長が共感し、春川市にバイオ産業の現場を作りたいという計画を国へ提案したことがきっかけ。当時の春川市長の志によって、バイオ産業が春川市に根をおろすことになった。
- 当初は春川市の職員がやっていたが、次第に公務員の能力だけでは十分な活動、仕事に対する理解ができないということで、専門家によってバイオ産業を拡大・発展させていくため、2003年に振興院が財団法人として設立された。大学と民間が協力して財団を作り、地域産業を育成することは、鳥取県でも十分可能だと思う。大学が協力することで、地域の特色を活かすことも可能となる。
- バイオクラスターの成功事例をみると、大学と企業が協力し合っている。そのような場合には競争力が生まれるように感じる。
- アメリカやヨーロッパにあるクラスターと日本や韓国の事情は少し違う。韓国と同じようなものを鳥取県に作ることは可能だと考える。規模としても同じくらいのものに育てることも可能だと思う。
- いつか鳥取県にお邪魔させていただきたいと思っている。その際には、本振興院の取組を説明させていただきながら、どのような分野で協力することができるのか考えさせていただきたい。
- 江原特別自治道の農業に関係した研究も行っているのか。
- 以前は、6次産業についてよく話をしていた。農業、産業、マーケティングであるが、それだけでは農家や企業ニーズを十分満足させることは難しい面がある。最近では、フードテックという産業を育成する計画を進めている。おそらく、フードテックは日本でもやっていると思うが、それをさらに育成することが農業と産業をつなげ、一緒に発展させる良い方法だと考えている。
- 一般企業は何社くらいが振興院に参加しているのか。
- バイオ産業振興院に入居している企業は約50社。ほかにも、本振興院では関係するバイオ関係企業の支援に加えて、入居企業あるいは関係するバイオ関係の企業以外にも、

江原道内のすべての企業を支援の対象としている。

○もともとこの地域では、バイオ産業が盛んであったのか。

●バイオ産業振興院が設立される前は、春川市近郊にバイオ関係の産業はなかったと聞いている。この振興院が設立されることによってバイオ関係産業が育成され、クラスターを形成し、今に至ったと言える。

○国から自由特区に指定されていると思うが、具体的にどのような規制緩和があるのか。

●韓国国内では、現政権になってからいろんな特区を指定している。江原特別自治道としては、国が政策的に進めているいろいろな特区を誘致して頑張っているところ。

○特区指定による規制緩和や税金優遇がなければ、なかなかクラスターを形成できなかったのか。

●振興院ができたときには、特別な規制緩和はなかった。また、クラスターを作る中で、国から恩恵など特別な支援もなかった。今になって国が特区に指定しながら、いろんな恩恵を与えるという政策を行い始めたので、我々は特区を誘致し、恩恵をもらおうと目標を立て、特区を通じてなおいっそう発展させていこうと考えている。

○規制緩和がなくてもクラスターはできるということか。

●クラスターの発展は、大学と企業と一緒になければいけない。公務員は支援だけ行い、干渉はしないことで企業と大学で何とかしてもらおうことがクラスターを発展させる一番重要なことだと思う。

○春川市のほかに平昌郡でも同じようなものがあると聞いている。合同でやっているのか、分野を分けているのか。また、バイオ人材の育成について、日本では人材不足が叫ばれている。若い人たちがバイオ産業で働きたいという意欲をどのように感じ、人材育成に取り組んでいるか。

●春川市と平昌郡では違うことをやっている。あえて言えば、春川のほうが先端的。人材育成については、日本も韓国も同じであると思う。昨年、長野県の副知事がこちらに来られた時に、同じ質問をされた。たぶん、日本も韓国も首都圏以外の地方においては、同じ悩みを持っているのだと思う。今の若者世代は、お金が一番。まずは、賃金をどうにかしないといけないと思う。



意見交換の様子



視察の様子



視察の様子



記念撮影

(3) 江原中学校視察

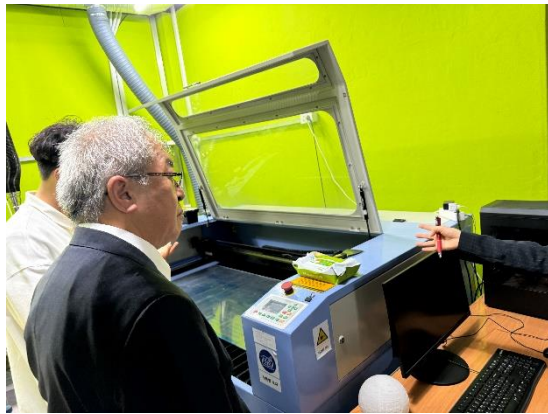
〔応対者〕 キム先生 ほか

【主な説明内容】

- 江原中学校は、「メンタリングに強い学校、みんなが望む学校」をモットーに学校運営を行っている。
- 江原中学校は、1957年に開校して、2001年から1人の教師が1つのクラスを担当する制度を始めた。現在は18クラス、519人の生徒が在籍。
- 2010年からメンタリングシステム「サークルクラス」を構築し、現在、24のメンタリング学級を運営している。メンタリング学級の数は教師の数によって、毎年変動し、現在の教師の数は43名。
- 1教師1教室の制度は、教師が責任感を持って自分だけの教室を運営する。1つの教室の中で、教材研究、授業、相談、協議、クラブ活動などすべてが行われているオール・イン・ワンのクラスである。
- 生徒は、差別化された教育課程の中で、進路を探索し、選択しながら自分が夢見る未来を設計する。昨年、春川市内にある20校の中学校では、学校内暴力が414件発生、江原中学校では12件発生している。本中学校は市内20校の中でも規模の大きい学校であるが、414件の中で12件の発生は、非常に少ない件数だと思っており、これはもっぱら本校のシステムのおかげであると考えている。
- 教師は学級を運営しながら、生徒に関する小さなことであっても見逃すことなく、逐時、各教科担当の先生たちと一緒に議論して、解決策を探っている。生徒たちは学習、家族問題などをメンタリング学習担任の先生と気兼ねなく議論することで、自分の問題解決に積極的に取り組む方法を学習している。
- 本校のメンタリングシステムである「サークルクラス」は、生徒は選択した課程を通じて自分の暮らし、人生をデザインし、教師は権限と責任を持って自主的に教育活動を行う制度である。
- 教師と生徒間のメンタリングはもちろんのこと、生徒同士の無学年メンタリングを通して、先輩と後輩の間には兄弟のような情を持つことになり、学習チュータリング、クラブ活動、探究プロジェクトなどを一緒に経験しながら成長することができる。
- 教師間のケアメンタリングを通じて、教師の専門性の強化、コーチング、ガイダンス、

コラボレーション、フィードバックなど教育現場に必要なチームワークを育てている。
「School in school」がキーワードである。

- 本校は、多様な教科と教科分野を超えたテーマを融合した授業を進行するために融合型特別教室を作っている。英語、化学、情報、美術、家庭、音楽、数学の分野で設けられており、来る夏休みには音楽に関する融合型教室が1か所構築される予定。
- こういったアップグレードされた教室環境を構築することで、授業を受ける生徒たちの満足度は非常に高くなっている。授業関係のフィードバックでは、「教室環境が良くて授業が楽しい。」という反応が90%以上となっている。
- 先端科学技術の習得にも力を入れており、パソコン、タブレット、VRゴーグル、ARグラスを使っている。3Dプリンターによるドローン製作、ドローン操縦なども行っている。3Dプリンターは校内に複数台あり、生徒が1台ずつ使うことが可能。
- 授業では電子黒板を活用しているが、授業の効率化に大きく寄与している。



説明を受ける様子(3Dプリンター)



説明を受ける様子(3Dプリンターでの制作物)



説明を受ける様子



説明を受ける様子



説明を受ける様子



記念撮影

(4) 金 是晟 (キム・シソン) 江原特別自治道議会議長主催 歓迎晩餐会

〔応対者〕

金 是晟 (キム・シソン)	江原特別自治道議会議長
金 瑠福 (キム・ヨンボク)	江原特別自治道議会第一副議長
朴 潤美 (パク・ユンミ)	江原特別自治道議会第二副議長
元 濟龍 (ウォン・ジェヨン)	江原特別自治道議会議員 (社会文化委員長)
嚴 潤順 (オム・ユンスン)	江原特別自治道議会議員 (農林水産委員長)
朴 贊興 (パク・チャンフン)	江原特別自治道議会議員 (経済産業委員長)
崔 圭萬 (チェ・ギュマン)	江原特別自治道議会議員 (安全建設委員長)
李 英郁 (イ・ヨンウク)	江原特別自治道議会議員 (教育委員長)
金 正洙 (キム・ジョンス)	江原特別自治道議会議員
全 贊聖 (チョン・チャンソン)	江原特別自治道議会議員

ほか、江原特別自治道議会事務局職員等

【主な発言内容】

(金 是晟 江原特別自治道議会議長)

- 尊敬する浜崎晋一議長をはじめ、鳥取県議会代表団の皆様を今一度歓迎申し上げます。
- 両道・県の議会同士では久しぶりに行われる交流会であるが、これを機にこれから友好が益々深まることを願っているし、議長として努力していく。

(浜崎 晋一 議長)

- 本日は、金是晟議長をはじめ、金瑠福副議長を表敬訪問させていただき、両県・道の更なる友好交流の深化に向けて意見交換をさせていただいた。
- また、春川バイオ産業振興院においてバイオ産業の振興策、江原中学校においてICTを活用した教育現場を視察し、江原特別自治道の先進的な政策について理解を深めることができた。
- 来年は、江原特別自治道議会議員の皆様にも鳥取県にお越しいただきたい。鳥取県議会議員との交流や県内の主要な施設等を視察いただき、鳥取県への理解を深めていただければ

ばと思う。

(金 瑠福 江原特別自治道議会第一副議長)

- 浜崎鳥取県議会議長をはじめ、鳥取県議会の皆さんの訪問につきまして、感謝を申し上げます。
- これを機に、両道・県議会がこれからもお互いが交流し合いながら、お互いを理解し合う場をもっと持っていきたいと思う。

(朴 潤美 江原特別自治道議会第二副議長)

- 鳥取県議会の皆さまとお会いできて、心から嬉しく思う。午前中の表敬時も同席させていただき予定だったが、別用務のためになかなか、残念に思っていた。
- 両道・県の今後ますますの友好を願っている。



金議長あいさつの様子



浜崎議長あいさつの様子



記念撮影



記念撮影

【令和6年7月16日（火）】

（5）金 鎮台（キム・ジンテ）江原特別自治道知事表敬

〔応対者〕金鎮台（キム・ジンテ）江原特別自治道知事
イ・ヒョル江原特別自治道企画室長

金鎮台江原特別自治道知事を表敬訪問し、両県・道の交流再開や今後の交流の可能性について意見交換をした。

【金鎮台江原特別自治道知事あいさつ要旨】

- 浜崎晋一鳥取県議会議長をはじめとする鳥取県議会議員の皆様を心より歓迎する。
- 江原特別自治道と鳥取県の友好交流は、30周年を迎えることとなった。また、両道・県議会の交流は14年目を迎えた。祝意を申し上げる。
- 日本と韓国の間には、3つの道がある。1つ目は「米子—ソウル間の空の道」（国際航空便）、2つ目は「まもなく開かれる、境港と韓国東海を結ぶ海の道」、そして3つ目の最も重要な道が「心の道」である。
- 春川バイオ産業振興院は、30年前にスタートし、最近では、バイオ産業のほか、半導体などに力を入れている。政府から国策として指定を受けた。
- 江原特別自治道は、山地が多く、また人口はそれほど多くないので、産業を発展させるには難しいところがある。しかし、昨年、「江原道」から「江原特別自治道」に昇格し、より一層産業発展に力を入れている。
- 一方で、江原特別自治道の人口は減少し続けており、今後、若者による代表団を組織して日本に派遣し、人口減少対策について勉強させていただく予定である。
- 今年の11月には、海の道を使って鳥取県を訪問する予定である。大変楽しみにしている。

【主な懇談内容】（○：訪問団、●：金鎮台知事）

- 昨日は、議長はじめ江原特別自治道議会の皆さまに大変な歓迎をいただいた。
- 日本の方は辛い物が苦手だと伺っているが、鳥取県と江原特別自治道との30年にわたる交流によって、少し馴染んできたのではないかと。
- おっしゃる通り、韓国の皆さまとの交流が深まることによって、食文化の交流も進み、日本でも韓国料理が馴染み深いものとなっている。
- 「孤独のグルメ」というドラマを見たが、鳥取市出身の方が原作者ですね。
- 谷ロジロー先生。このほか、水木しげる先生や青山剛昌先生を輩出した「まんが王国とっとり」としてPRしている。
- 私は、法律家の検事出身で、学生時代は、日本の法律も勉強したり、日本の事例を勉強したりして日本語を覚えた。韓国の法律と日本の法律は、似ている部分があると感じている。
- 日本では、最近、「虎に翼」という女性の法律家を主人公にしたテレビドラマが流行っており、多くの方々が視聴している。
- 韓国でも、昔は女性判事は珍しかったが、最近は、それほどでもない。半分くらいは、女性の判事だと思う。
- コロナ感染症の影響などによって交流がストップしていたが、こうして再開し、江原

特別自治道と鳥取県の友好交流が30周年を迎える意義深い年に我々も訪韓させていただいた。今後も様々な分野で友好関係を強固にしていきたい。



金鎮台江原特別自治道知事との懇談前



金鎮台江原特別自治道知事との懇談前



金鎮台江原特別自治道知事と記念撮影



江原特別自治道庁前で記念撮影

(6) 春川三岳山湖ケーブルカー

〔応対者〕 春川市職員

【主な説明内容】

- 春川市と株式会社ソノインターナショナルが共同で建設（2015年着工）し、コロナ禍の2021年10月8日にオープンしたケーブルカー施設である。総延長は、3.61キロメートルであり、乗車時間は約18分で事業費は545億ウォン。事業費は、すべて民間負担となっている。
- オープンから2024年6月末までの約2年半の間に、約161万2千人が来客している。韓国国内には、ほかにもケーブルカー施設があるが、それらは新型コロナウイルス感染症の流行以来、訪問客数が減少しているのが現状。一方、本施設は、順調に訪問客数が増えている。
- また、本施設には、散策路があり、その頂上にはスカイウォークという下が透けて見える場所がある。散策路の総延長は、485メートル、所要時間は往復約25分で、総

事業費は、45 億ウォン。事業費は、すべて春川市の負担である。

【主な意見交換内容】（○：訪問団、●：視察先）

○ほかのケーブルカー施設の訪問客が減少している一方、本施設では増加している要因は何か。

●要因として考えられるのは、湖と山を一緒に見られるなど素晴らしい風景を有する点とソウルから約1時間半で来られるなど首都圏から近いという点である。また、四季の景色がとても美しく、春には花がたくさん咲き、夏は緑が豊かになり、秋にはきれいな紅葉が広がり、冬は雪景色がとても素敵である。

○春川市と民間が一緒になって運営されていて、資本は全部民間ということであるが、そのような資本関係になった経緯を教えてください。

●公募を通じて事業者を募集し、選定した。株式会社ソノインターナショナルは、本施設以外にもコンドミニアムとか遊具施設など江原特別自治道内でとても大きな事業所を運営している会社である。そこがやりますと手を挙げて、春川市が行政的支援の後押しをして、設備投資は株式会社ソノインターナショナルが行った。民間が資金を投じて建設したが、建設後に本施設は春川市に移管・寄附された。ただ、運営権は20年間、民間が持つこととなっており、現在の運営権は同社にある。したがって、収益も民間に入っている。

○来客者数が約160万人ということだが、当初の予想通りであるか。

●正直なところ、予想よりは少し少ない。オープン当初に、新型コロナウイルス感染症で来客がなかった。このため、予想よりは少なかったが、徐々に回復している。また、現在、事業者と春川市が来客者数を増やすために協力してアイデアを出し合っている。韓国国内には、41か所のケーブルカー施設があるが、そのうち、本施設を含めて3つくらいが黒字であり、そのほかは赤字施設となっているのが実情である。

○施設のメンテナンスは行政、民間のどちらが行っているか。

●民間が行っている。

●施設運営企業は国内大手である。全国でリゾート施設を運営している。アメリカ本土やハワイでも事業展開しているほか、東京にも日本法人がある。



視察の様子



ケーブルカーから見える景色



ケーブルカー上部停車場からの眺望



散策路からの眺望

(7) 春川国立博物館

〔対応者〕 施設職員、キム・ダヨン江原特別自治道地質専門家

【主な説明内容：春川国立美術館について】

- 春川国立博物館と鳥取県立博物館とはここ15年くらいに渡って友好交流に取り組んでおり、姉妹提携の関係にある。研修員の派遣などを行っている。
- 当博物館は、国機関の文化部（日本でいう省）に所属している。韓国国内には全部で13ヶ所の国立博物館がある。当館は江原特別自治道にある博物館を総括している。
- 江原特別自治道は韓国内でも恵まれた自然環境を有しており、文化遺産が数多く残っている場所である。
- この博物館は2002年10月にオープンし、20年余りが経過した。館内では、①土の中から掘り出された文化財、②優れた自然環境を描いた展示作品、③この地に生活していた人々が残した遺産、を展示している。国宝に指定予定の文化財も展示している。
- 韓国の土壌は酸性が強く、土の中のものが酸化して無くなりやすい特徴がある。
- 韓国では朝鮮戦争で多くの文化財が焼けてしまったが、山間のお寺などでは住職が身を挺して守ったおかげで、仏教やお寺に関係があるものが残っている。
- 日本の文化財復元技術は世界最高水準であるが、現在では、韓国も高い技術を有している。IT、ICT技術が高く、3Dプリンターでレプリカを作り、お客さんに触ってもらうなどの取組を行っている。
- 館内には、横28メートルの大型LEDモニターを設置している。このモニターは16K画質を誇っており、写真のようにクリアなグラフィック画像を放映している。当博物館に対する好奇心を刺激する良い契機になっていると考えている。また、階段を活用したプロジェクションマッピングも行っている。

【主な説明内容：国家ジオパークについて】

- 韓国国内にある国家地質公園あるいは世界地質公園は、国レベルが14か所あるが、3か所が江原特別自治道内に存在している。世界レベルは、韓国国内に5か所あり、江原特別自治道内に1か所となっている。日本には世界レベルが10ヶ所あると聞いている。

- 江原特別自治道は、火山岩とか変成岩、堆積岩地帯などいろんな種類の地質が分布しており、多様性に富んでいる。江原特別自治道内に地質公園が発展した理由である。
 - 江原特別自治道内の地質公園は、山林や生態資源の豊かさなど多様性を持っているため、道内に多数分布している。今現在、国家地質公園あるいは世界地質公園として3か所が指定を受けており、1か所は指定を受けるために準備しているところである。
- ※このほか、「漢灘江（ハンタンガン）ユネスコ世界ジオパーク」「江原平和地域国家ジオパーク」「江原古生界国家ジオパーク」の概要について説明を受けた。

【主な意見交換内容】（○：訪問団、●：視察先）

- 漢灘江ユネスコジオパークは、京畿道と江原特別自治道の地域にまたがってる。さきほど江原特別自治道の条例の話が出てきたが、江原特別自治道に限った話だと思う。京畿道との条例のすり合わせは、どのように進めているのか。
- 京畿道、江原特別自治道のそれぞれが条例を定めており、共同の条例は無い。5つの団体が絡んでいる。それぞれが条例を持っていることによって様々な問題が生じており、すり合わせるための実務協議は行っているが、共同の条例を制定することは、なかなか複雑で難しい。それぞれの条例で管理運営するにしても、業務協約のようなもの、同じ内容を持って管理運営する条例を作るために今、話し合いを行っている。
- 鳥取県は山陰海岸ジオパークエリアに入っているが、こちらも3府県にまたがっており、連携が非常に重要なポイントになっている。ユネスコからも再認定に当たって、協議体などしっかりしたものを作るようにとお話を伺っているところ。そちらのほうでは、ユネスコとの協議はどのようになっているか。
- 最初に認定を受けた時からの勧告事項の1つであった。再認定審査に当たって、ユネスコからは、行政的に難しいところがあるのはよくわかるが、統合的に管理する機能を持った何かがないといけないという話があった。次の再認定までにいかんとして準備をするかが課題となっている。
- 漢灘江ジオパークは、100万人のお客さんが訪れているとのことだが、海外か、国内か。また客層はどうか。
- 来場者数のうち、国内・国外のデータはとっていない。
- 山陰海岸世界ジオパークとの交流を行ってはどうか。
- 大歓迎である。ユネスコから認定を受ける時、海外とのネットワークを作ることが勧告事項の1つとなっている。我々は、認定を受けてからMOUを締結したことがなく、これから積極的に海外との交流をしながらネットワークを作っていきたい。



博物館前で記念撮影



博物館視察の様子



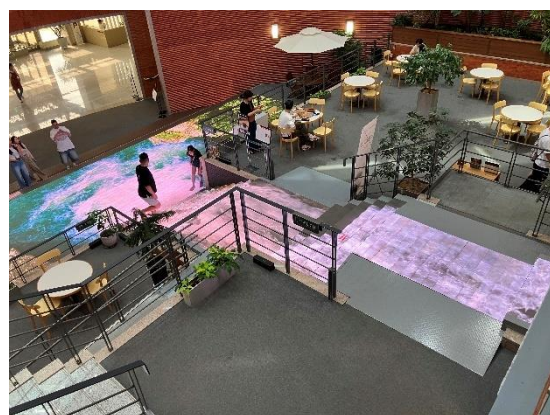
博物館内(展示物)



博物館内(展示物)



博物館内(プロジェクションマッピング)



博物館内(プロジェクションマッピング)



博物館職員と記念撮影



ジオパークに関する意見交換の様子

(8) 崔 承洵 (チェ・スンスン) 日韓国際交流協会会長主催 歓送晩餐会

〔応対者〕

崔 承洵 (チェ・スンスン)	日韓国際交流協会会長
金 吉洙 (キム・ギルス)	江原特別自治道議会予算決算特別委員長
朴 大縣 (パク・デヒョン)	江原特別自治道議会企画行政委員会副委員長
柳 順玉 (ユ・スノク)	江原特別自治道議会社会文化委員会副委員長
朴 寛熙 (パク・グァニ)	江原特別自治道議会社会文化委員会委員
崔 鍾洙 (チェ・ジョンズ)	江原特別自治道議会農林水産委員会委員
楊 淑姬 (ヤン・スッキ)	江原特別自治道議会安全建設委員会副委員長
沈 午燮 (シム・オソプ)	江原特別自治道議会教育委員会委員

ほか、江原特別自治道議会事務局職員等

【主な発言内容】

(崔 承洵 日韓国際交流協会会長)

- 鳥取県議会代表団の皆様を改めて歓迎申し上げます。
- 訪問団の江原特別自治道での公務が、有意義なものになったのであれば大変嬉しく思う。
- 両道・県の熱い友情は、浜崎議長をはじめとする鳥取県議会議員のみなさまの努力の賜物。
- 第11代江原特別自治道議会としても、両地域の友好を更に進めていくことに役立ちたいと考えている。

(浜崎 晋一 議長)

- 崔承洵会長をはじめ、日韓国際交流協会の皆さまに厚く御礼を申し上げます。
- こうして6年ぶりに交流が再開できたのは、昨年7月に崔会長から交流再開を要請する書簡をいただいたことがきっかけとなっている。
- 日韓国際交流協会の皆さまには、両県・道議会交流の中核的な役割を担っていただき、議会交流の活発化に多大なる御尽力をいただいていることに感謝申し上げます。
- このたびの訪問では、知事・議長訪問のほか、両地域に共通する様々なテーマについて視察・意見交換をすることができ、大変有意義なものとなった。
- 来年は、江原特別自治道議会の皆さまに鳥取県にお越しいただき、本県議会議員等との交流や県内主要施設等を御視察いただき、鳥取県への理解を深めていただきたい。



歓送晩餐会でのあいさつ



記念撮影